

2014年度
まちづくり委員会代表者会議



と き：2014年6月4・5日

ところ：長野県上高井郡小布施町

■2014まちづくり委員会代表者会議 出席者一覧(敬称略)

都道府県	会議出席者	所属	初日視察G	宿・部屋番号	懇親会	2日目分科会G	弁当	備考
北海道	馬渡 真哉	三越伊勢丹グループ労組 札幌丸井今井支部	1	栞一客殿 1	1			
	加藤 仁	UAゼンセン北海道支部	1	栞一客殿 1	1			
青森	前田 卓司	さくらの百貨店労組	1	栞一客殿 12	1			
	山田 清秋	UAゼンセン青森県支部	1	栞一客殿 12	1			
岩手	佐藤 弘	UAゼンセン岩手県支部	1	ゲストハウスS	1			
宮城	本郷 仁	イオンリテールワーカーズユニオン	1	おぶせの風 G	1	×	×	二日目朝戻り
秋田	福田 恒夫	UAゼンセン秋田県支部	1	ゲストハウスG	1			
山形	渋谷 文男	大沼労組	1	ゲストハウスB	1			
福島	阿部 一洋	全中合労組	1	おぶせの風 B	1			
	秋葉 宏	UAゼンセン福島県支部	1	おぶせの風 B	1			
茨城	川瀬 武彦	ケーズホールディングスユニオン	1	ヴァンベール4	2			
群馬	内川 雅清	UAゼンセン群馬県支部	1	おぶせの風 C	2			
埼玉	茂呂 貴裕	八木橋労組	1	おぶせの風 A	2			
	小日向 辰也	UAゼンセン埼玉県支部	1	おぶせの風 A	2			
千葉	保田 武利	UAゼンセン千葉県支部	1	おぶせの風 C	2			
東京	俣野 勝敏	UAゼンセン東京都支部	2	おぶせの風 C	2			
山梨	鈴木 信貴	岡島労組	2	おぶせの風 E	2			
神奈川	大田和 久	相鉄ローゼン労組	2	おぶせの風 E	2			
	小嶋 伸二	UAゼンセン神奈川県支部	2	おぶせの風 E	2			
新潟	中村 弘一	アーグランドグループ労組	2	ヴァンベール1	3			
富山	田口 健治	イオンリテールワーカーズユニオン	2	×	3	×	×	懇親会后、戻り
	田村 麻美	イオンリテールワーカーズユニオン	2	×	3	×	×	懇親会后、戻り
石川	村田 達成	小松精練労組	2	ゲストハウスA	3			
	神田 淳一	UAゼンセン石川県支部	2	ゲストハウスA	3			
福井	木瀬 治和	UAゼンセン福井県支部	2	栞一客殿 10	3			
長野	羽田 靖宏	東急百貨店グループ労組 ながの東急百貨店支部	2	ヴァンベール4	2			
	古川 尚武	UAゼンセン長野県支部	2	ヴァンベール4	2			
愛知	田中 俊治	UAゼンセン愛知県支部	2	ヴァンベール1	2			
三重	藤澤 貴士	近鉄百貨店労組 四日市支部	2	×	×	×	×	視察後、戻り
滋賀	岡 将人	UAゼンセン滋賀県支部	2	ゲストハウスS	4			
京都	村山 哲平	大丸松坂屋百貨店労組 京都支部	3	×	×	×	×	視察後、戻り
大阪	廣瀬 正之	エイチ・ツー・オー・リテイリング労連	3	ヴァンベール3	4			
	廣澤 茂之	UAゼンセン大阪府支部	3	ヴァンベール3	4			
兵庫	高石 勝徳	大阪ガス労組 姫路支部	3	おぶせの風 S	4			
	横山 和史	東洋紡労組 高砂支部	3	おぶせの風 S	4			
	浅山 里奈	UAゼンセン兵庫県支部	3	おぶせの風 F	4			
奈良	富田 竜二	UAゼンセン奈良県支部	3	ゲストハウスB	4			
岡山	楨野 博通	全天満屋労組	3	栞一客殿 6	4			
山口	通山 浩	帝人労組 徳山支部	3	栞一客殿 11	4			
	櫻井 良	UAゼンセン山口県支部	3	栞一客殿 11	4			
徳島	喜納 浩信	UAゼンセン徳島県支部	3	栞一客殿 10	3			
香川	大森 崇吏	四国化成丸亀労組	3	栞一客殿 2	3			
	丹羽 宝宏	UAゼンセン香川県支部	3	栞一客殿 2	3			
高知	肥本 博昭	サニーマート労組	3	栞一客殿 3a	3			
愛媛	津川 隆史	いよてつ高島屋労組	3	栞一客殿 3b	3			
	柏田 達範	UAゼンセン愛媛県支部	3	栞一客殿 3b	3			
福岡	鎌田 健嗣	UAゼンセン福岡県支部	4	栞一客殿 7	5			
佐賀	篠原 圭太	佐賀玉屋労組	4	栞一客殿 5	5			
長崎	松尾 悟	浜屋労組	4	栞一客殿 5	5			
大分	小野 浩一郎	トキハ労組	4	栞一客殿 7	5			
宮崎	鎌田 正洋	全山形屋労組 宮崎山形屋支部	4	栞一客殿 8	5			
	砂長 勉	UAゼンセン宮崎県支部	4	栞一客殿 8	5			
鹿児島	野口 祐一	全山形屋労組	4	栞一客殿 3a	5			
沖縄	勘米良 晃司	UAゼンセン沖縄県支部	4	ゲストハウスC	5	×	×	二日目朝戻り
流通	新妻 健治	イオングループ労連	4	栞一客殿 9	4			
流通	玄葉 威視	セブン&アイグループ労連 ヨークベニマル労組	4	×	×	×	×	視察後、戻り
流通	西尾 多聞	UAゼンセン流通部門	4	ゲストハウスS	4			
流通	川橋 学	UAゼンセン流通部門	4	ゲストハウスS	4			

事務局

本部	田村 雅宣	政策グループ	4	おぶせの風 D	1			
本部	中村 善雄	政策・労働条件局	4	おぶせの風 D	1			
本部	杉山 慎一	政策・労働条件局	1	おぶせの風 A	5			
本部	鯉沼 正浩	政策・労働条件局	2	ヴァンベール1	5			
本部	菊池美保	広報・情報局	4	ヴァンベール2	5			

■2014まちづくり委員会代表者会議スケジュール

6/4 (水) (1日目)	13:50~14:20		受付	小布施町 公民館(講堂) 集合	
	14:20~14:25	5分	オリエンテーション	UAゼンセン 政策・労働条件局 鯉沼 正浩	
	14:25~14:30	5分	開講挨拶	政策・労働条件局 杉山 慎一	
	14:30~16:00	90分	講演	「住民が主役のまちづくり」 講師 小布施堂社長 市村 次夫氏	
	16:00~16:05	5分	視察地の紹介	「まちとしょテラソについて」 講師 前まちとしょテラソ館長 NPOオブセリズム代表 花井 裕一郎氏	
			進行	文屋 代表 木下 豊氏	
	16:05~16:15	10分	休憩・視察出発準備		
	16:15~18:00	105分	視察	小布施観光協会のまち歩きガイドの同行 4班にて行動 〔視察箇所〕 ◇まちとしょテラソ (花井さんと、全員で視察) ◇栗ガ丘小学校 (オープンガーデン) ◇小布施町並み修景事業一帯 (北斎館、オープンガーデン (市村町長邸) を含む)	班ごとに視察
	18:15~		宿泊施設にチェックイン		
	18:45~21:00		夕食懇親会 〔ご参加頂く講師〕	場所:小布施堂本店 市村 次夫様 (小布施堂社長) 花井 裕一郎様 (前まちとしょテラソ館長、NPOオブセリズム代表) 平松 幸明様 (平松農場代表 小布施文化観光協会 理事) 桜井 昌季様 (桜井甘精堂社長 小布施文化観光協会 理事) 市川 博之様 (松葉屋社長 小布施文化観光協会 会長) 木下 豊様 (文屋代表 小布施文化観光協会 理事)	
6/5 (木) (2日目)	7:20~		朝食	各宿泊場所にて 部屋ごとにチェックアウトを済ませ、徒歩で『平松農場』へ	
	8:15~8:45	30分	視察	〔視察箇所〕 ◇平松農場 平松農場 代表 平松 幸明氏	
	8:45~9:00	15分	公民館(講堂)へ移動		
	9:00~10:00	60分	講演	「わくわく演出マネジメント」 講師 前まちとしょテラソ館長 NPOオブセリズム代表 花井 裕一郎氏	
	10:00~10:10	10分	休憩		
	10:10~11:20	70分	まちづくり政策(素案)の意見交換、まちづくり委員会活動事例共有		
	11:20~11:50		会議全体を振り返って、ブロック毎にまとめを実施		
	11:50~11:55	5分	まとめ	政策グループ 副書記長 田村 雅宣	
		会議終了 ※会議終了後、お弁当を配布			

市村 次夫 (いちむら つぎお)

株式会社小布施堂

株式会社榊一市村酒造場代表取締役



1948年、長野県生まれ。

1971年、慶応義塾大学法学部卒業

同年信越化学工業入社。経理、人事、財務などを経験。

1980年、父親の逝去により長野県小布施町にある家業の酒屋と栗菓子屋を継ぐ。以来「町並み修景事業」をスタートとして景観や建築を主体とした地域づくりに尽力。また事業面でもレストランや宿泊施設の営業活動やイベントの開催などにより地域の魅力拡充に貢献。

1998年、日本建築学会文化賞

2005年、デザインエクセレントカンパニーを受賞

2009年、藍綬褒章受章

「住民が主役のまちづくり」

平成26年6月4日

市村次夫

1 小布施見にマラソン（出番の重要性）

- (1) 小中学生のボランティア参加（マラソン）
- (2) 町民の軽い参加意識
- (3) 近隣市町村民のアマチュアバンド（縁奏）
- (4) 須坂市の企業駐車場
- (5) 企業・職場の団体参加ボランティア（弁当持参も）
- (6) 割引価格による商品提供
- (7) 公共交通機関の有効性（但し協賛精神の不足）
- (8) ビジネスホテルの週末出番

*長野五輪での英国チームのホステス・ワイン選択

2 定住外来者の活用

- (1) セーラ・カミングス氏（小布施見にマラソン・国際北斎会議）
- (2) 岩井節夫（小布施出身者）＋町当局——オープンガーデン
- (3) 花井裕一郎氏（まちとしょテラソ）
- (4) ウィリアム（カナダ人）のベンチ（オブジェ）
- (5) ボルダリング施設のプレゼンテーション
- (6) 玄照寺境内アート（近隣市町村民を運営者側に）
- (7) 「日米学生会議」から「若者会議」「サマースクール」

3 定住者の頑張り

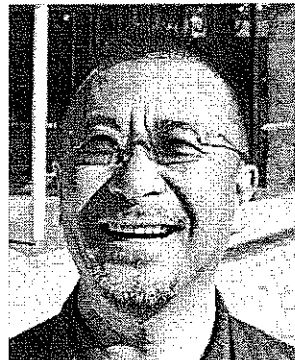
- (1) 浄光寺スラックライン（全国大会・世界大会も視野に）
- (2) 300年の報恩行事（押羽の3義民）
- (3) 農林水産大臣賞受賞「風の会」
- (4) よろず普請
- (5) 六川の「十四カ郷用水」管理運営（昭和48年まで）

4 町並み修景事業——町並み修景運動——小布施の流儀

花井 裕一郎 (はな い ゆういちろう)

演出家、「まちとしょテラソ」前館長

NPO 法人オブセリズム代表



1962年、福岡県筑豊生まれ。

1989年～1994年、フジテレビジョンにて番組演出。

1994年～1996年、NHK、TBS、日本テレビ、東芝 EMI にて番組、PV の演出。

2000年より長野県小布施町を拠点とする。

2002年、小布施 堂文化事業部長に就任。

2003年～2009年「60秒シネマコンペティション」事務局担当。

2007年より「おぶせTシャツ畑」ディレクター。

2007年12月～2009年7月、小布施町立図書館館長として新図書館準備室勤務。

2009年7月～2012年11月、小布施町立図書館「まちとしょテラソ」館長。

「ないのにある」＝「存在そのものは目に見ることが出来ないが、そこにはエネルギーが存在する」ことを体感しながら、本来の人間の姿・生き方を模索し、創作活動を展開。

「本がある」交流広場、まちじゅう図書館

NPO 法人オブセリズム：花井裕一郎（はない ゆういちろう）

まちじゅう図書館の誕生

創業 231 年を迎える味噌醸造の老舗「穀平味噌醸造場」。暖簾をくぐると味噌桶や商品が並ぶ店内の奥に 100 冊の本が並ぶ。

味噌に関する本はもちろん、店主の興味のある宇宙に関する本や小布施町に関する本、晩年小布施に逗留していた葛飾北斎の本、中には貴重な本も並んでいる。

2012 年に小布施町で始まった「まちじゅう図書館」の一館である。ご近所の方々はもちろん、小布施町の来訪者も多く来店するこの店に味噌を買い求める人だけではなく、「本棚みせてください」と声を掛けて入店してくる人が増えている。

「まちじゅう図書館」とは、小布施町立図書館まちとしょテラスが開館する際に考えられた、本を通じた交流の場づくりである。1000 m²ほどの小さな図書館では、すぐに本棚はいっぱいになると考えた設計者、古谷誠章さんによって発案された。小さな図書館であり、町の規模も小さいということから、町すべてに本棚を置いて、町中を図書館に例えようというものだった。当初は図書館が本を提供し、どこでも借りられてどこでも返せるといった構想だった。しかし、それを 実現するための予算がなかった。

それでもなんとか実現をしようと考えた。2 年間で準備に費やした。

小布施町には本屋さんがない。そこから考えることにした。町に「本がある」という状態を作っていくことから考えたのだ。

町民有志とともに東京・不忍ブックストリートの一箱古本市に学び、小布施町でも一箱古本市を開催することにした。一箱古本市とは、参加者が一箱に売りたい本を持ち寄って、販売しながら交流を楽しむ、古本市である。春はお寺で、秋は観音通りという 1km の範囲で開催した。

一箱古本市で学んだことは、本は人と人をつなぐ道具として存在できるのだということだった。一人のこだわりや箱の中のテーマにそった本を並べる編集力によってその人と同じ趣味や興味をもっている人が吸い寄せられていくのだと感じた。

この本がつなぐ物語を小布施にいくつも生み出すことは、素晴らしいことだと思い始めた。ただ図書館が提供する本ではなく、誰かが一生懸命読み、そして本棚に並べる。それが人と人をつなぐ「本がある」広場となるのだと確信した。上記した穀平味噌醸造場では、きっと味噌に関する本を読んでいるだろう。酒屋さんは酒に関する本を、パン屋さんはパンやコーヒーに関する本を読んでいるだろうと考えたとき、それをご自宅の本棚に並べているだけではなく、店先に置いてくれないかと考えた。店先でわからないことがあれば、店主に尋ねればよい。そこで会話が生まれ、もっと交流が深まるかもしれない。そう考えた時に、これは図書館で行われているレファレンスサービスであり、店主は図書館スタッフと考えられた。これだ！まさしくこれは図書館になっている。「まちじゅう図書館」の誕生だ。まちじゅう図書館は、“交流の図書館”である。店や家、商店街などに本棚を置くことにより、持ち主の個性が感じられたり、馴染みの人の違う一面を感じたり、本をきっかけに同じ関心を持つ人とつながることである。この人と人との交流こそがまちを元気にする原動力だと考えている。

一般のお宅でも主が興味を持つ本を玄関近くにおいていただけないかとお願いした。

参加していただけるすべての空間を図書館とし、その主を館長とした。これまでの参加者は、酒造メーカー、銀行、カフェ、農家、一般のお宅など17館。それぞれがユニークな本棚を構成している。

穀平味噌醸造場には、本の持ち込みもあるという。自分ではまちじゅう図書館に参加して本棚を公開することにまだ積極的ではないけれど、多くの人に知ってほしい本を持っている、できれば穀平味噌醸造場のまちじゅう図書館の本棚に並べてほしいということなのだ。また、一般のお宅のまちじゅう図書館では、本棚も人気だが、その空間（場）も人気である。近くの町民がミーティングに使用したり、試験前になると中学生たちがやってきて勉強をしている。まさにこれも図書館的である。

それぞれが、工夫を凝らし本のある空間を演出している。そこに居心地の良さを発見した人たちは、交流を始めるのである。

全国に広がる「本がある」広場

この動きは、小布施町だけの動きではない。福岡県、愛知県、千葉県、岩手県、北海道にも広がっている。千葉県の特定非営利活動法人情報ステーションでは、地域住民が気楽に立ち寄れてふれあえる場として民間図書館を運営している。小布施町のまちじゅう図書館との違いは、まちじゅう図書館は、それぞれの参加館に貸し借りの運営を任せているのに対して、民間図書館では、情報ステーションである程度ルールを決め、組織的に運営をしている点である。

また昨年3月、社会実験プロジェクトとして渋谷・原宿で16日間「はしご図書館^①」が開催された。これは本を介して、まちに集う人々をつなぎ、まち全体をネットワーク化することを目的に行われた。

30cm×30cmほどの木箱に店主の好みの本を並べてもらうという方法。ここでもその店の特徴が現れていた。例えば、原宿で米を販売する店では、お米、ごはん、料理本といったラインナップ。またコミュニティFM局を運営するカフェでは、音楽やスタイリッシュな本が並んだ。

他にも北海道恵庭市^②や福岡県八幡区^③でも同様な動きがある。

「本がある」という空間が、人と人をつなぐということを多くの人が気づいている。今では、サービス業を営む企業からもまちじゅう図書館に関する問い合わせが筆者のところに来ている。

「本がある」という空間は、ただ人と人とを交流させてというものではなく、人を滞留させ、そこでコミュニケーションを生むことができるのだ。

ある本のファンであった人が、ある本を持っていた人と出会い、会話し、交流を重ねることによって、お互いにファンとなる。このつながりは、まちづくりの大きな一手だと確信している。

観光でお金をいくら落としてくれるのだろうと考える「観光客」扱いではなく、「本がある」空間に来訪者としてこられる方々へ「おもてなし」をするという感覚を持ち迎えるという考え方だ。

東北まちじゅう図書館プロジェクト

NPO 法人オブセリズムでは、この「本がある」空間となる広場づくりをさらに広げようと試みている。

最初の試みは、「東北まちじゅう図書館プロジェクト」である。

これまでのまちじゅう図書館と少し違うのは、これまでは館長（主）に本を提供してもらっていたが、この「東北まちじゅう図書館プロジェクト」は、まず全国 から本を集めている。集まった本から館長が選び、そして読んでいただき、気に入った本を並べていただくというものだ。というのは、東北では震災による津 波で本も流され不足している。それには本を集め、図書館的なものを作らなければいけないと感じたからだ。それは大きな図書館ではなく、まちじゅう図書館の ような広場の感覚から始めることだと考えた。そして、まちじゅう図書館を作り上げていくプロセスでも、本を提供してくれた方と館長たちの交流が始まればと 期待している。

また、パートナーとして、株式会社紬の KUMIKI PROJECT に参加していただいている。岩手県陸前高田市の森では、復興住宅を建設するために数多くの杉が伐採されているが、KUMIKI PROJECT は、その切り株を有効利用し、自由に組み合わせて壁や床、家具を作る木材キット「KUMIKUBRICS」を作っている。その他にも大阪を 拠点に、家具、空間、プロダクト・グラフィックのデザインから食、アートにわたって様々なクリエイティブ活動を展開する会社 graf にも参加していただいている。

本の管理などには、本を通じて人と場所をもっと面白くするサービスを展開中のリブライズ。また古書を使って日本に住むすべての人々が素晴らしい本と出会うことができ、より良い人生を送ることを願い活動されているバリューブックスにパートナーとなっていただいている。

全国から送られる本は、要らなくなった本ではなく、誰かに読んでほしい本でなければならない。

現在、岩手県陸前高田市と宮城県石巻市にて、最初の「東北まちじゅう図書館プロジェクト」を行う準備をしている。

石巻市では、すでに「本がある」場をつくり活動している「石巻 まちの本棚」がある。この動きと「まちじゅう図書館」がコラボレーションすることを考えている。

まちづくりとしての「本がある」広場

小さなまちの小さな図書館と住民が始めた「本がある」広場づくり。今この考えが全国の同じような考えを持つ人々や団体と同調し始めている。

シャッター街となってしまった商店街や廃校、人の交流が希薄になったコミュニティなどは、今まさにこの「まちじゅう図書館」的な動きが必要な時となっていると考える。是非！小さくてもいい「本がある」広場を少しずつそれぞれの個性によって広げていってほしいと願っている。

木下 豊 (きのした ゆたか)

文屋代表



1959年、長野県小布施町生まれ。

出版会社、新聞社、第三セクターを経て、

1999年に文屋を設立。庭を見渡す自宅の一室を仕事場に、編集出版の仕事始める。

信州小布施の地をよりどころに「いいまちをつくりましょう」との思いから暮らしと仕事を含む自分のありかたを「田園プロデューサー」と呼ぶ。

五反分（約千五百坪）の田畑にて、米・栗・りんご・梨プルーンなどを栽培。

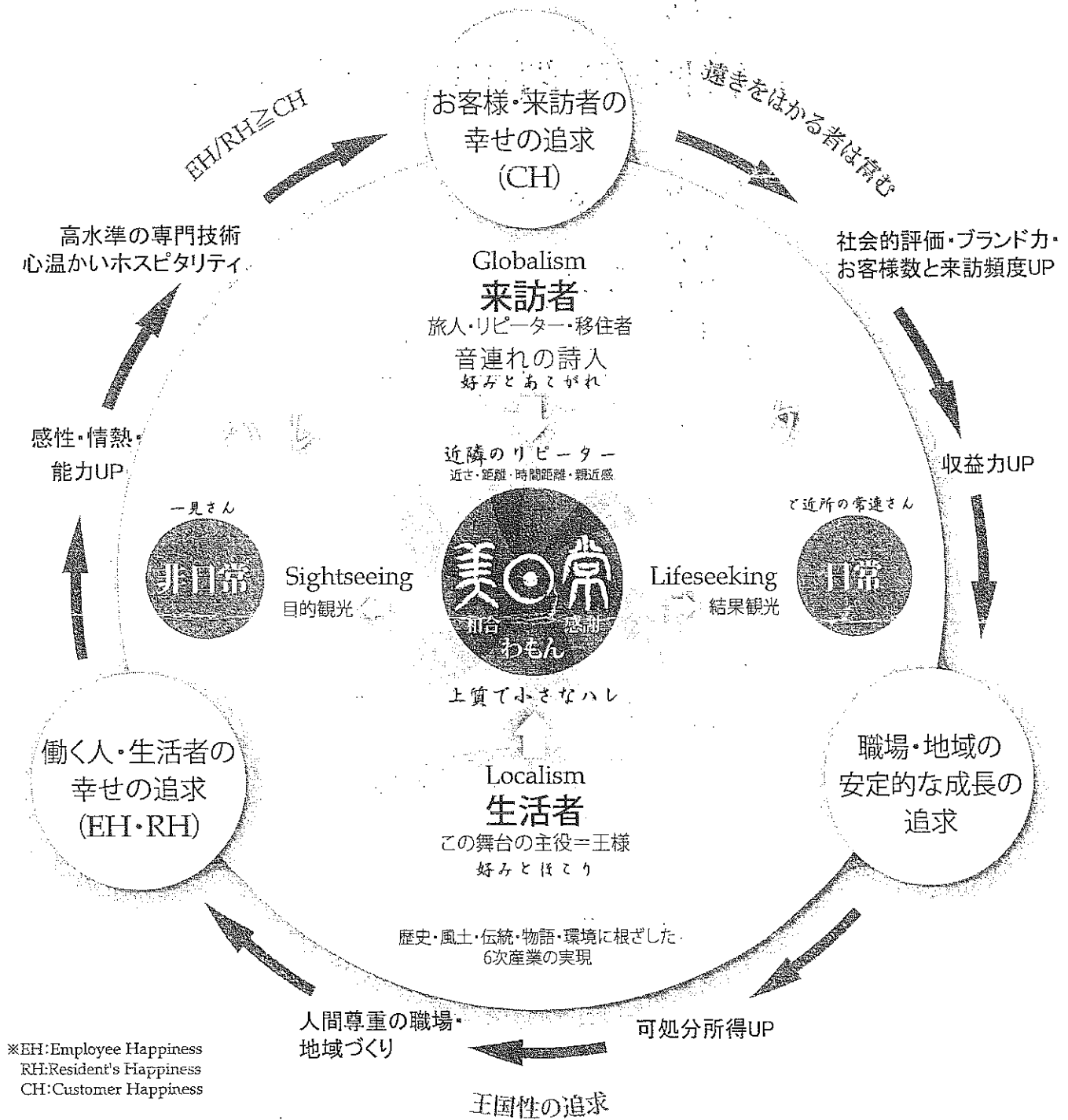
風呂と暖炉のために、薪づくりに励んでいる。

2000年に小布施町の唐沢彦三町長が主唱して始まった「オープンガーデン」に一庭主として参加。

【美日常マングラ】

美日常の、安らかで和やかな、いいまちをつくりましょう。

生活者と来訪者が交歓し幸福を感じる「美日常」を暮らしの舞台で



※EH:Employee Happiness
RH:Resident's Happiness
CH:Customer Happiness

「美」とは、本来あるべき姿、それぞれの分に応じたツトメを果たしきる姿。

かせぎ・貨幣(マネタリー)経済・営利追求
R(権利・take & get)

$$\frac{R}{D} \leq 1$$

つとめ・非貨幣(ボランタリー)経済・社会貢献
D(義務・give & given・本来あるべき姿)

奪い合えば足りず、分かち合えば余る

※R=right D=duty

参考:川越胃腸病院長・望月賢行著『いのち輝くホスピタリティ』P109(文章)の「ひと満足的好循環スパイラル」
2009.11 YUTAKA KINOSHITA, BUNYA

平松 幸明 (ひらまつ こうめい)

平松農場園主

1967 年生まれ

1987 年、長野県農業大学校

営農学部果実研究科卒業

1992～1993 年、長野県農業青年クラブ協議会会長 (PAL ネット)

現在 小布施文化観光協会 副会長

株式会社ア・ラ小布施 取締役



平松農場概要

栽培面積：4.5 h a

栽培品目・品種

クリ/丹沢,筑波,小布施 2 号,銀寄,岸根 等

アンズ/信山丸、ハーコット、ゴールドコット、信州大実

リンゴ/フジ

ネクタリン/メイブランド

